



TITLE:

# シリーズ「京都大学図書館巡り」 序

AUTHOR(S):

後藤, 慶太

---

CITATION:

後藤, 慶太. シリーズ「京都大学図書館巡り」序. 静脩 1998, 35(1): 6-7

ISSUE DATE:

1998-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/37495>

RIGHT:

報収集、卒業論文のための文献調査等に必要の情報活用技術を演習によって習得させながら、情報図書館学、情報探索学の概要を学ばせる。文系、理系それぞれに適した演習を用意し、学生に選択させて具体的な技術を習得させる」ことにある。

- ② 京都大学では学生の科目選択の自由度が大きいという伝統があるので、配当学年は1～4回生とする。ただし、パソコンの使い方を習熟している学生が対象。
- ③ 初めての試みなので1クラスとし、受講者数は100～150人を想定する。
- ④ 開講期は前期とする（特に積極的な理由はない）。
- ⑤ 講義担当教官は、長尾総長の他に菊池図書館長、川崎教授、金子助教授、黒橋講師。
- ⑥ 授業は次の13回として、レポート提出による単位認定とする。

第1講 大学図書館への招待（1回）

第2・3講 分類の一般概念と分類理論（2回）

第4講 情報の種類（1回）

第5・6講 目録情報とその利用法（2回）

第7・8講 データベースの種類とその利用法（2回）

第9・10講 インターネット情報と利用法（2回）

第11・12講 参考資料の種々とその利用（2回）

第13講 図書館情報、および図書館の種類とその機能（1回）

2回あるものについては、1回は演習にする。

- ⑦ 演習においては補助者として図書館職員が協力する。演習補助者は部局図書室からも参加してもらう。

第1講は長尾総長が担当した。（写真）講義は遠隔講義システムを利用できる法経第二教室を使用し、質疑応答時には双方向の遠隔授業となった。第2講以降は総合人間学部の教室と演習室を使用した。第11・12講：「参考資料の種々とその利用」では、附属図書館を会場に1階備付の参考図書を利用した演習も行われた。13回にわたって行われた講義と演習をここで紹介することはできないが、アンケートをとった結果、概ね「役に立つと思う」と好評だった。"来年も開講されたら後輩に薦めるか"という設問には、59.4%の学生が「薦める」と回答している。大変うれしいことである。

（参考調査掛長 慈道佐代子）

## シリーズ「京都大学図書館巡り」 序

京都大学には、附属図書館の他、各学部・教室・研究所などに大小合わせて60ほどの図書館・室があります。これらの図書室（館）がそれぞれ独自性を保ちつつ、有機的に連携を取りながら本学の図書館サービスが展開されています。

昨年（1997年）、京都大学は創立百周年を迎えましたが、図書館もそれにほぼ匹敵するくらいの歴史を持っています。この長い時間の中でさまざまな出来事・変化があったことと思えますし、今でも毎日いろいろな動きがあります。そこでここでは、利用者の動向に注目して最近の顕著な傾向を紹介したいと思います。

1つ目は学生の図書館利用の変化です。本学の図書館は、おおよその傾向として附属図書館と総合人間学部図書館（旧・教養部図書館）が主に基礎的・一般教育向けの資料を揃え、各部局図書室（館）がより高度で専門的な資料を揃えているということが言えます。学生たちは教養課程の時代には教養部図書館で過ごし、専門領域に進むに従って各部局図書室（館）に親しんでいくというのが大体の流れでした。ところが1993年3月をもって教養部が廃止されるといきなり各部局図書室（館）に1、2回生が多数訪れるという新しい傾向が見られるようになりました。各部局図書室（館）の蔵書構成は前述

した通りですから、将来の専攻も決まってい  
ない、図書館利用に不慣れな 1, 2 回生は書架に  
並ぶ本を見てうろうろするばかり。図書館職員  
も彼らにどのような利用指導をしたらいもの  
か戸惑うばかり。

2 つ目は利用者の大幅な増加と多様化です。  
すべての学部で大学院の重点化が終了し、また  
独立大学院もいくつか設置され、大学院生の数  
が一挙に膨れ上がりました。それと併せて利用  
者数を押し上げているのが一般市民も含めた学  
外からの利用者の増加です。これは、オンライ  
ン目録への登録が進み、学術情報センターの  
Webcat により全国の大学図書館の所蔵状況が  
容易に把握できるようになったことが大きいで  
しょう。これら全国からやってくる利用者に資  
料を提供することはもちろん、参考業務、そし  
て利用指導に至るまで既存の施設や人員ではと  
うてい対処できないほど業務量が増えています。

これらの点について、現在の段階では十分な対  
応ができているとは言えません。いかにマン  
パワーと予算の不足は否めません。十分な予  
算措置と人的配置が切に望まれるところです。

しかし、大学教育の発展に従って、そのため  
の蔵書構成は変容せざるを得ないでしょうし、  
蔵書の分担配置も変えていかざるを得ないで  
しょう。すでにいくつかの部局図書室（館）は  
学生用図書費を確保したり、学部生向けサービ  
スについて工夫をしているところもあります。  
また相互協力、生涯教育の観点から学外の求め  
にもできる限り応じていくのも図書館としての  
務めでしょう。

次号から各部局図書室（館）をご紹介します。  
まず最初は総合人間学部図書館です。  
京都大学の部局図書室（館）を利用者が有効に  
利用する一助となることを願っています。

（電子情報掛 後藤慶太）

## OPAC を使ってみませんか

OPAC はコンピュータを利用した蔵書目録で  
す。オパック（オーパック）と呼んでいます。  
京都大学で所蔵している図書・雑誌のうちコン  
ピュータに入力されているものが検索できます。  
研究室・自宅のパーソナルコンピュータからイ  
ンターネット経由で利用できます。  
内容は同じです。利用しやすいほうを利用して  
ください。

Web 版の OPAC は附属図書館のホームページ  
から利用できます。

附属図書館のホームページは以下のとおりです。

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp>

telnet 版の OPAC は下記のホストに接続してく  
ださい。

<Kensaku.libnet.kulib.kyoto-u.ac.jp>

Login: が表示されたら opac と入力、password:  
が表示されたら opac と入力してください。

京都大学のすべての蔵書がコンピュータに入力  
されているわけではありません。附属図書館の  
カード目録も検索してください。

（薬学部図書掛長 渡邊 誠）

Online  
Public  
Access  
Catalog

OPAC には  
Web 版と  
telnet 版が  
あります。

